



独立行政法人  
国立国際医療研究センター  
National Center for Global Health and Medicine

# 国府台

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1  
国立国際医療研究センター国府台病院長 上村 直実  
TEL:047(372)3501 FAX:047(372)1858



2014. 2月

第 22 号

[ 矢切の渡し(やぎりのわたし) ]

矢切の渡しは、千葉県松戸市下矢切と東京都葛飾区柴又を結ぶ渡し船で、その歴史は、江戸時代初期から現在へと引き継がれています。

## 目次

◇ 職場紹介	.....	2
◇ 第12回肝臓病教室の開催報告	.....	2
◇ 地域医療連携病院のご紹介	.....	3
◇ 第13回肝臓病教室のご案内	.....	3
◇ 第8回市川市自治会連合協議会講演会	.....	4
◇ 中学生の職場体験	.....	4
◇ 児童精神科病棟の行事	.....	5
◇ CTとMRIを最新機器に更新	.....	5
◇ 新医師紹介	.....	6
◇ 第67回国立病院総合医学会(金沢)	.....	6~9
◇ 栄養一口メモ	.....	10
◇ 編集だより	.....	11

\*ホームページでは、カラーでご覧になれます <http://www.ncgmkohnodai.go.jp>

## 職場紹介 ～今回は、東2病棟を紹介します～

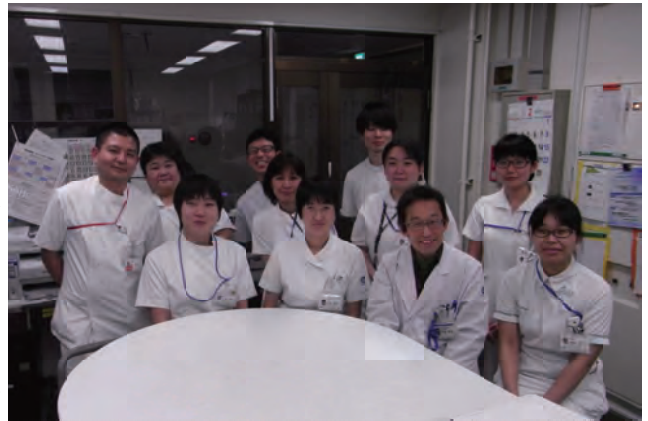
東2病棟は精神科閉鎖病棟で、精神疾患の治療を必要とする患者さんが入院されています。

内部は開放的で入院されている患者さん同士が交流できるホールがあります。

精神医療福祉の変化に伴い、身体的な治療を要する患者さんの割合も多く、また入院期間が短くなる傾向にあります。看護師は若手からベテランまで幅広く在籍し、入院時から、医師、薬剤師、精神保健福祉士、作業療法士等と手を携え、患者さんや家族が望む生活にスムーズに移行できるようにケアにあたっています。

東2病棟スタッフは、入院されている患者さんが安全で安心して療養できるよう、チームでみなさまに寄り添います。

## 東2病棟 看護師長 中村 直子



## 第12回 肝臓病教室の開催報告

平成25年12月14日（土）に肝炎・免疫研究センター研修室Aにおいて、第12回肝臓病教室を行いました。約70名の方が参加され、熱気あふれる教室となりました。

また、今回の肝臓病教室では、テーマにあわせて、体成分測定を体験できるコーナーを作り、約30名の方に参加いただきました。一般の体重計では、体重が増えたり減ったりした場合、脂肪が減ったのか、筋肉量が減ったのかは分かりませんが、体成分分析を行うことによって、それらが明らかになりますので、今では体成分分析は栄養指導には欠かせない検査となっています。当院では平成25年8月に体成分測定器を導入しましたので、気になる方は主治医に相談して測定してみてください。



さて、肝臓病教室は、まず、竹田 消化器肝臓内科医師より、脂肪肝と非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の違いについての説明がありました。NASHは脂肪肝に炎症などが加わり、将来的に肝硬変・肝癌が出現する疾患ですので、注意が必要とのお話でした。

次に、先ほどの体成分測定結果も参考にしながら、古田主任栄養士より、「脂肪肝の栄養管理と体成分測定の活用」と題したお話がありました。今後も当院では体成分測定を行い、科学的根拠のもと、その人に合った栄養指導を行ってまいります。



## 肝炎・免疫研究センター 肝疾患先端治療室長 村田 一 素

1. 脂肪肝と非アルコール性脂肪肝炎 (NASH)  
消化器肝臓内科医師 竹田 努
2. 脂肪肝の栄養管理と体成分測定の活用  
栄養管理室 主任栄養士 古田 雅
3. 糖尿病・肥満は肝臓にとって悪者？  
肝疾患研修室長 是永匡紹

開催日時：

平成25年12月14日（土曜日） 14時～16時

開催場所：

肝炎・免疫研究センター研修室A  
（国府台病院敷地内）

※ 講演終了後に肝炎、肝硬変、肝癌を中心に個別相談を行いました。

最後には是永肝疾患研修室長より、「糖尿病・肥満は肝臓にとって悪者？～肝炎ウイルス排除後も要注意な脂肪肝～」と題し、糖・脂肪代謝が如何に肝疾患の進行や肝癌の出現に関連があるかについての説明がありました。肝疾患のほとんどはウイルスが原因で起こりますが、ウイルスばかりでなく、糖や脂肪といった代謝に係る病態もよく考えながら、また食事にも注意しながら治療を行っていく必要を感じとられたのではないのでしょうか。

また、講演終了後に恒例となりました個別相談も開催し、好評をいただきました。

次回、第13回肝臓病教室は、平成26年3月22日（土）14時～16時に、市川市男女共同参画センターに会場を移して行います。詳しくは次ページを御覧ください。多数のご参加をお待ちいたしております。



## 地域医療連携病院のご紹介

廣瀬医院 廣瀬 安紀

廣瀬医院は祖父が開業して以来72年間に亘って現在の地で内科系医院として診療を行ってきました。古くからあるだけで目を見張るような医療設備・機器があるわけではありませんが、日々の診療においては可能な限り時間をかけて患者さんのお話を伺い、検査、治療などについてはできるだけ専門用語を避けて分かりやすい言葉で説明し、きちんと納得していただけるように心がけております。地域の皆様との信頼関係を大切にし、微力ながら皆様の健康維持のお役に立てるよう、またよりよい医療を提供できるように一層の努力を続けてまいります。

国立国際医療研究センター国府台病院には病診連携で平日頃より大変お世話になっており、心より感謝しております。高度な医療レベルのみならず、ご紹介させていただいた患者さんへの親身かつ適切な対応や、迅速で丁寧なご返事などにも地域の中核病院としての自負とモチベーションの高さが窺え、私達開業医にとっても大変心強い存在です。今後とも、よろしく願いいたします。



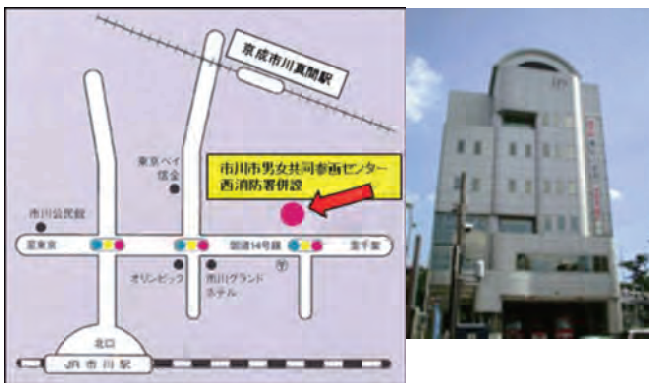
住所 : 市川市真間2-11-18  
 電話 : 047-322-2327  
 各種検診 : 市川市特定健康診断、肝炎ウイルス検診、  
 肺がん検診、大腸がん検診  
 予防接種 : 三種混合、二種混合、インフルエンザ、  
 水痘(みずぼうそう)、破傷風、B型肝炎  
 診療科 : 内科、胃腸科  
 診療時間 : 月・木 9:00~12:00 15:00~19:00  
 火・水・金 9:00~12:00 15:00~18:00  
 土 9:00~12:00  
 ※ 土曜午後・日曜・祝祭日・年末年始は休診  
 交通 : JR市川駅北口より 徒歩 9分  
 京成電鉄 市川真間駅より 徒歩 7分



## 肝臓病教室のご案内 (第13回)

日時 : 平成26年3月22日(土曜日)  
 14:00~16:00  
 場所 : 市川市男女共同参画センター7階  
 市川市市川1-24-2  
 (西消防署の建物)  
 ※ JR市川駅より徒歩5分

※ 予約は不要で、参加費は無料です。  
 ※ 終了後に個別相談(肝炎、肝硬変、肝癌を中心に)も行います。  
 ※ ご相談のある方は血液検査・CTなどの資料をお持ちいただくと、状態に応じた詳しい説明をお受けになれます。



### プログラム

司会 村田一素 肝疾患先端治療室長

1. C型慢性肝炎における栄養バランスを  
 考えて鉄を減らす食事法  
 栄養管理室 主任栄養士 古田 雅
2. この1年で進歩した  
 C型慢性肝炎に対する新しい治療法  
 肝炎・免疫研究センター長 溝上雅史

問い合わせ先 :

〒272-0816 千葉県市川市国府台1-7-1  
 国立国際医療研究センター国府台病院  
 肝炎・免疫研究センター 村田一素  
 TEL: 047-375-4757(直)

## 市川市自治会連合協議会講演会

平成25年11月21日（木）、市川市民文化会館において第8回市川市自治会連合協議会講演会が市川市自治会連合協議会と市川市の共催で開催されました。

第1部は、ビクター所属の演歌歌手 安藤栄子さんの歌謡ショーがあり、心地よい音楽でひとときを楽しまれた後、休憩を挟んで上村直実国府台病院長の講演会が行われました。昨年行われた第7回の講演会で、上村院長の講演内容



に興味を持たれた市民が多くおられた、ということで、リクエストにお応えする形で講演が決定しました。今年の演題は「高齢者の健康維持と病気の予防Part 2」胃がんリスク検診を中心とした講演内容でした。

千葉県内で初めて市川市が実施する胃がんリスク検診は、平成25年度から始まりました。講演では“ピロリ菌と胃がんの関係、リスク検診とは何か、リスク検診の判定方法”などを市民の皆様に分かりやすく説明されました。

講演の後には質疑タイムがあり、たくさんのご質問を頂きました。胃がん検診に対して、市民の皆さまの興味や関心が高いことを感じた講演会でした。



### 第8回市川市自治会連合協議会講演会 市制施行80周年に向けての記念講演会

第1部 13:40～14:10 安藤栄子 歌謡ショー

第2部 14:25～15:15 上村直実 講演会

高齢者の健康維持と病気の予防Part 2

～市川市で始まった胃がんリスク検診を中心に～

於：市川市民文化会館

## 中学生の職場体験

平成25年10月31日（木）から2日間にわたり、市川市立第四中学校2年生7名の職場体験学習を受け入れました。

初日は看護部、二日目は薬剤部、栄養管理室、リハビリテーション室を体験する学習です。体験学習の前にオリエンテーションを行い、白衣に着替え、日程に沿って各職場へ向かって行きました。

これまで患者さんやお見舞いの立場で病院を見る機会があったでしょうが、職員という立場で病院を経験し、また、多様な職種の業務を直接見て感じることで、将来への夢が膨らんだのではないのでしょうか。

体験学習の最後にアンケートで職場体験後の感想を聞かせて頂きました。用意した回答欄に書ききれないほど、たくさん感想を頂きました。どの生徒さんも楽しく有意義な体験をされたようです。



後日、7名それぞれの手書きのお礼状と共に、尾崎校長先生と山田主任からもお礼状を頂戴いたしました。将来、国府台病院の看護師、薬剤師、栄養士になって頂ける日をお待ちしています。

### 看護師体験の感想

- ・責任があり、とてもやりがいのある仕事だと思いました。
- ・憧れていた看護師経験は楽しかった。
- ・相手の気持ちを考えられるところは凄い。

### 薬剤師体験の感想

- ・薬を入れて包装する機械は凄い。
- ・機械を使い自分で調剤が出来て楽しかった。
- ・点滴ボックスに使う人の名前や病名が書いてあり便利で凄い。

### 栄養部門体験の感想

- ・口が動かせない人や飲み込みにくい人に合わせて調理していることは凄い。
- ・へえ、と思うような食事の工夫があって驚いた。

### リハビリ室体験の感想

- ・患者さんと話すことの大切さを学びました。
- ・患者さんと分かり合えて支えてあげられることは凄い。



## 児童精神科病棟の行事

東3病棟  
看護師 近松由里

### ～クリスマス会～

平成25年12月18日(水)に、クリスマス会がにぎやかに行われました。多彩なレクリエーションがある中で、平成25年の最後の催しです。

東3病棟のホールはクリスマスツリーやモールなどで華やかに飾られ、出し物用のステージも用意されました。ケーキやピザなど、クリスマスならではのものやお菓子、飲み物を準備し、また、栄養管理室の協力もあり充実した食事になりました。クリスマスムードの高まる中、次第に子ども



達のテンションも上がってきたところでクリスマス会が始まりました。子どもたちはそれぞれ、この日のために練習してきた出し物を発表しました。小学生の可愛らしい合唱や中学生のバ



ンドの演奏、空手、ダンスなど多種多様な出し物があったり、医師や看護師も変装して、歌やダンスの出し物があったりと、笑いがこぼれる楽しい時間を過ごすことができました。

クリスマス会の司会や音響、暗幕などは中学3年生が中心となり、自分の仕事に責任を持ち、一生懸命取り組んでいる姿に成長を感じました。



最後にサンタクロースに変装した子ども達がプレゼントを配り、盛り上がる中で終了となりました。楽しい空間を共有すること、仲間と取り組むことが子ども達の一つの思い出として刻めていたら嬉しいと感じます。



最後にサンタクロースに変装した子ども達がプレゼントを配り、盛り上がる中で終了となりました。

楽しい空間を共有すること、仲間と取り組むことが子ども達の一つの思い出として刻めていたら嬉しいと感じます。

## CTとMRIを更新しました

放射線診療部  
主任診療放射線技師 阿部 優

昨年、当院に導入されました、最新のCT、MRIを紹介いたします。

### OTOSHIBA社製Aquilion PRIME

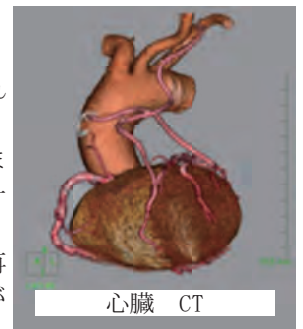


TOSHIBA社製Aquilion PRIME

このCT装置は、現在マルチスライスCTに求められる最上級の性能を搭載した装置です。

高速撮影を行ないながら高解像度の画像を提供できます。例えば常に動いている心臓から、下肢血管までを一度に撮る事が可能であり、頭部Perfusion(脳血流解析)なども行えます。被ばく低減技術として逐次近似応用再構成法により、高画質のまま最大約75%の被ばく低減が可能な装置です。

当院に導入されたCT装置はマルチスライスCTのハイエンドモデルになります。



心臓 CT

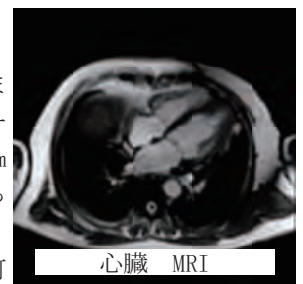
### OSIEMENS社製MAGNETOM Aera 1.5T



SIEMENS社製MAGNETOM Aera

MRIというと狭いというイメージもあるかもしれませんが、最先端MRIの能力を最大限に引き出す70cmオープンボアというデザインで、横幅が70cm奥行きが145cmと開放的になっており閉塞感の緩和されたデザインになっています。

さらに超高密度コイルにより高画質で高速の撮像が可能となり、従来よりも検査時間の短縮が実現します。更新前の装置ではできなかった心臓検査やファンクショナルMRI(脳機能検査)なども可能になりました。



心臓 MRI

## 新任医師の挨拶



### (呼吸器内科 医師 佐藤輝彦)

本年1月に赴任致しました。

新宿の国立国際医療センター（当時）での内科研修医・呼吸器科レジデントを経て、順天堂大学呼吸器内科で喘息・COPD・肺癌等幅広く呼吸器疾患の臨床業務に従事して参りました。

気胸・嚢胞性肺疾患に興味を持ち基礎研究に従事する一方、日産玉川病院気胸研究センターに出向し、外科医の指導の下胸腔鏡を含む気胸の専門治療の修得にも努めて参りました。呼吸器疾患全般について最新の情報にアンテナを張りつつ、丁寧で安全な医療を提供出来るよう心がけて参ります。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 第67回国立病院総合医学会(金沢)

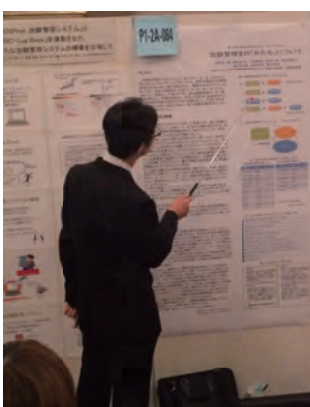
平成25年11月8日(金)・9日(土)、金沢市内にて第67回国立病院総合医学会が開催されました。

国立病院機構、国立高度専門医療研究センター、ハンセン病療養所の職員など約6千名が参加する大規模な学会です。今回のテーマは「Vita Nuova! <新生> 国立医療 ～新たなる船出に向けて～」でした。毎回、国府台病院職員が多数参加しておりますが、今回、発表を行った職員に学会参加報告をいただきます。



### 口演：脳卒中危険因子としての高齢発症気分障害 脳神経外科医師 香川 賢司

「脳卒中危険因子としての高齢発症気分障害 ～気分障害に併発した無症候性脳梗塞の治療を通して～」について口演発表しました。脳卒中がうつ病の危険因子となることはよく知られていますが、近年、逆にうつ病が脳卒中の有意な危険因子となり得ることが報告されました（JAMA 306: 1241-1249, 2011）。うつ病自体の神経内分泌作用や免疫学的作用のほかに、不健康な生活習慣（飲酒、喫煙、不健康な食事、運動不足、肥満）やそれに伴う高血圧や糖尿病といった基礎疾患の合併、服薬コンプライアンスの不良、さらには服用している抗うつ薬そのものの作用など、さまざまな因子が脳卒中発症機序に影響していると考えられています。高齢発症の気分障害（うつ病、双極性障害など）は、その背景に無症候性脳梗塞が存在することが多く、その場合「無症候性脳梗塞」と「気分障害」の2つの脳卒中危険因子を有することになり、将来の脳卒中発症の高リスク群であると言えます。したがって、この時期に危険因子に対して適切な治療を行なうことは重要であると考えます。



### ポスターセッション：治験管理室の「かたち」について 治験管理室主任 牧山 稔

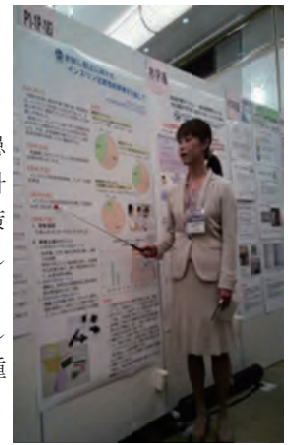
国立病院総合医学会で、治験管理室の「かたち」について、と題して、発表してきました。

具体的には、SMO (Site Management Organization : 治験施設支援機関) の導入とその成果・問題点、更に実際の経験からわかったことや院内の治験コーディネーター、事務局との関わりについて発表しました。ベストポスター賞は頂けませんでしたでしたが、他の施設の方からご質問頂き、関心を持って頂いたのではないかと考えております。今後も、内容を充実させ、よりよいかたちの報告ができればと思います。このような機会を与えて頂き、大変感謝しております。



## ポスターセッション：針刺し防止に向けたインスリン注射技術研修を実施して 看護師 朴 桂栄

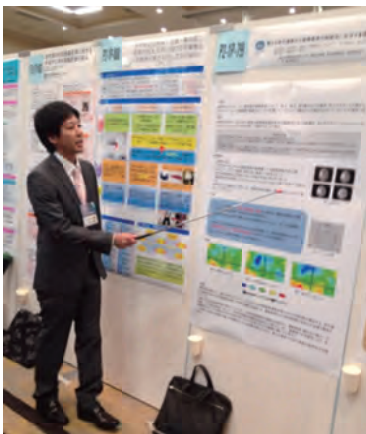
国立病院総合医学会で「針刺し防止に向けたインスリン注射技術研修を実施して」というテーマでポスターセッションの発表をしました。病院では、感染管理認定看護師として、患者さんと職員を院内感染から守る役割を担っていますが、針刺しのリスクは、毎日現場で針を取り扱っている以上はゼロにはなりません。しかし、限りなくゼロに近づけるための対策は必要です。そこで、針刺し報告件数の中で最も多かった、インスリン注射針による針刺しの原因を教育担当看護師長と共にアセスメントし、全看護師対象の技術研修を各病棟や外来、手術室などそれぞれの部署に赴き実施しました。その結果、インスリン注射針による針刺し報告件数は激減しました。今後も、患者さんや職員を院内感染から守るために、様々な職種と協働しながら活動していきたいと思っています。



## ポスターセッション：異なる歩行速度が片麻痺患者の脳賦活に及ぼす影響について 理学療法主任 玉田 良樹

国立病院総合医学会において、「異なる歩行速度が片麻痺患者の脳賦活に及ぼす影響について」をポスター発表してきました。

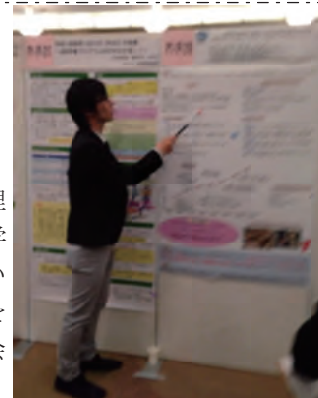
内容は、光トポグラフィ（fNIRS）という、近赤外光を用いて頭皮上から非侵襲的に脳の血流を計測する機器を片麻痺患者さんに着けてもらい、遅く歩く、普段通り歩く、早く歩く、の3つの運動を行い、脳がどのように反応するかを調べました。片麻痺患者さんには、遅く歩くという運動が最も脳が活動しているという結果が得られました。歩く速度によって脳の活動に変化があることが具体的にわかり、歩行練習を行う際の裏付けになるものと考えています。今後もいろいろな臨床研究を続け、患者さんに有益なリハビリテーションを提供できるように努力をしていきたいと思っています。



## ポスターセッション：神経性食欲不振症に対する理学療法の経験 ～重度のろいそを呈したAN患者に入院早期より理学療法が介入した一例～ 理学療法士 嶋 悠也

国立病院総合医学会で摂食障害に対しての理学療法を発表しました。

当院では著しい身体機能の低下が認められる摂食障害患者を診療しているため、医療的管理と並行し低下した身体機能に対し理学療法も行っていく必要があると考えられます。早期より理学療法が介入することで活動制限時に生じる筋力低下、関節可動域制限が予防出来るのではないかと考えられました。摂食障害患者に理学療法が介入できるのは他部門のスタッフが医療管理を行っていたからであり、より患者さんを含めたチーム医療が重要な疾患であると考えられました。会場からの質問やご指摘なども充実した学会発表でした。

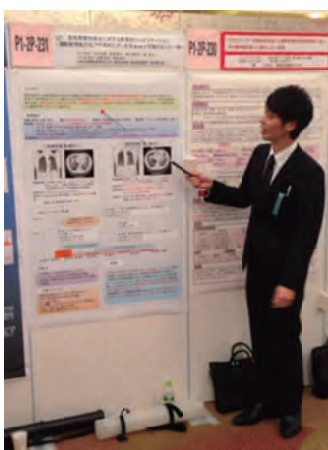


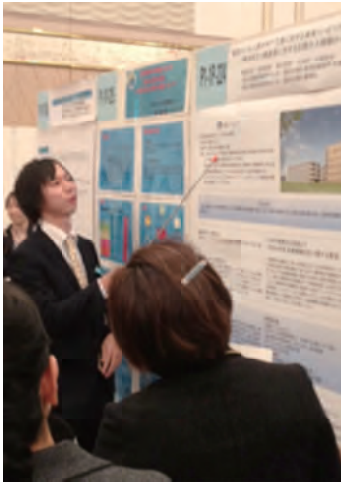
## ポスターセッション：急性間質性肺炎に対する教育的リハビリテーション ～運動耐用能の低下を認めたが、自宅復帰が可能となった一例～ 理学療法士 庄子 拓良

国立病院総合医学会で「急性間質性肺炎に対する教育的リハビリテーション～運動耐用能の低下を認めたが、自宅復帰が可能となった一例～」についてポスター発表を行いました。

間質性肺炎は、呼吸機能の低下に伴って日常生活に制限をきたす疾患です。今回の発表では、早期から可能な範囲での筋力トレーニングや歩行訓練、呼吸方法の指導等を行ったことで自宅への復帰が可能となった一例について発表しました。現在、間質性肺炎に対して早期からリハビリテーションが介入したという報告は少ないので、今後もこのような発表を重ねて行きたいと思っています。

今回は他病院及び他部門の方々の発表を聞く事ができ、とても有意義な時間を過ごす事ができました。今後も積極的に参加し、臨床・研究に励んでいきたいと思っています。





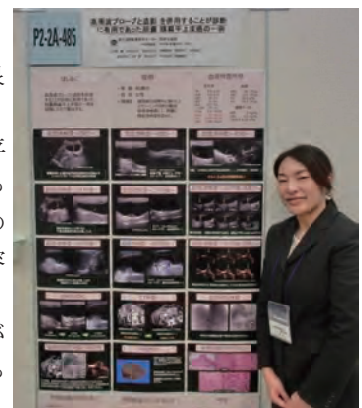
**ポスターセッション:電気けいれん療法施行患者に対する身体リハビリテーション～難治性うつ病患者への長期介入経験から～**  
作業療法士 南雲 友和

国立病院総合医学会ポスターセッションで「電気けいれん療法施行患者に対する身体リハビリテーション～難治性うつ病患者への長期介入経験から～」について発表しました。近年、精神科の患者さんの高齢化に伴い身体合併症や廃用症候群により、一般科治療を必要とする患者さんや入院が長期化する患者さんが多く報告されています。当院は精神科救急医療と一般科医療を同時に提供できる数少ない病院です。今回の発表では、当院の特色を活かした積極的な精神科医療と一般科分野での身体リハビリテーションを同時に提供し、状態が回復した症例を報告しました。発表にあたり精神科主治医をはじめ、病棟看護師から協力をいただき、改めてチーム医療の重要性を再認識することができました。また、他の国立病院で行われている研究や症例報告に触れ、多くのことを学習することができました。この経験を今後の臨床に繋げていきたいと思えます。

**ポスターセッション:高周波プローブと造影を併用することが診断に有用であった胆嚢腺扁平上皮癌の一例**  
臨床検査技師 只野 薫

胆嚢腺扁平上皮癌は胆嚢癌の中でも比較的稀で、進展が急速であるため、予後不良とされています。今回経験した症例は、スクリーニング目的の超音波検査で発見され、高周波プローブと造影を併用することで、他の検査では確定診断に至らなかった扁平隆起主体の胆嚢癌を比較的早い段階で診断することができました。また、高齢であったことから実際手術をするまでに数か月经過観察しており、その間に行った複数回の超音波検査で隆起の急速な増大がとらえられ、臨床の特徴と合致していたという内容でした。

この度、初めて国立病院総合医学会に参加させていただきました。普段聞くことができない他部門の方の発表やポスターを拝見することができ、とても充実した、あつと言う間の2日間でした。このような機会を与えて頂いたことに感謝致します。



**ポスターセッション:当病棟における退院支援を困難にしている要因**  
看護師 田口 そよは

国立病院総合医学会で「当病棟における退院支援を困難にしている要因」というテーマでポスター発表してきました。

当院では2013年に地域医療連携室に看護師が配置され、退院支援に向けて入院時から活動しています。当病棟では、入院日からスクリーニングシートを用いて退院支援計画を早期に立案し退院促進に向けてチームで活動しています。現状以上の効果的な退院支援を明らかにするため今回の研究に取り組みました。今回の研究結果をもとに今後の退院支援についても積極的に取り組んでいきたいと思えます。

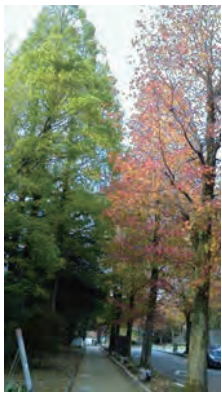
**ポスターセッション:摂食障害患者とはじめて関わる看護師の陰性感情の実態調査**  
副看護師長 濱崎 涼子

国立病院総合医学会にてポスター発表を行い、ベストポスター賞をいただくことができました。たくさんの方のご指導、ご協力のおかげです。

今回の研究では、心療内科の経験の浅い看護師が摂食障害の患者さんと関わりはじめてからの経過を追い、どのような感情を抱き、どのように変化していくかを明らかにしました。今後も引き続き、どのような要因が看護師の気持ちを変えていったのかを具体的に明らかにするとともに、新人看護師へのサポート内容を検討していき、患者さんも看護師も、より気持ちよく過ごせる病棟作りに関りたいと考えています。







### ポスターセッション:新人看護師研修にリフレッシュ研修(院外活動)を取り入れて 看護師長 中村 直子

国立病院総合医学会ポスターセッションで「新人看護師研修にリフレッシュ研修(院外活動)を取り入れて」について発表しました。発表の内容は、昨年度から当院で実施している、新人看護師の離職予防と精神的ストレス緩和を目的とする研修の効果と課題についての報告です。新入職員に対する研修をテーマにした演題は数多く発表されており、他の病院でも、昨今の多様で高度な医療現場に適応するために、教育や研修を工夫していました。当院の取り組みについても関心をもっていただき、グループ編成の方法や年間の研修計画について質問を受けました。学会で得た経験を次年度以降の教育計画に取り入れていきたいと思えます。

### ポスターセッション:精神科病棟における私物管理～病棟管理の視点から～ 看護師長 田中 且子

「精神科病棟における私物管理～病棟管理の視点から～」というテーマで、国立病院総合医学会に発表してきました。

精神科病棟では、患者・医療者双方の安全を第一に看護にあたっています。なかでも私物の管理については人権・プライバシーを守りつつ安全への配慮が必要であり、面会者にも協力をいただく必要があります。今回、家族控室を設置、運用したことで面会者からの危険物持ち込みが減少したこと、また、家族控室は、面会者と看護師とのコミュニケーションの場にもなっているとの評価を得ました。

また、学会を通して他施設の方たちとの交流も深めることができました。今後の看護管理に活かしていきたいと思えます。



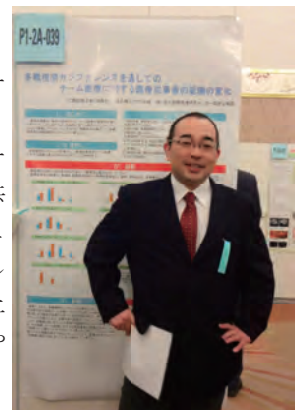
### ポスターセッション:精神科病棟における暴力のアセスメント ～暴力のリスクアセスメントシートの作成～ 看護師 吉川 広子

今回、数年ぶりに国立病院総合医学会において「精神科病棟における暴力のアセスメント～暴力のリスクアセスメントシートの作成～」というテーマで発表してきました。当病棟は精神科救急病棟として24時間緊急入院を受け入れていますが、その多くの入院患者は精神運動興奮状態であり、常に患者・医療者双方の安全確保が必要とされている現場です。しかし、このような状態の患者を受け入れるにあたり、医療者個々の精神科経験により対応が様々で統一されていませんでした。そこで、アセスメントシートを作成し、基準化したことで暴力の件数が減る結果となりました。今後も暴力防止に努めながら看護ケアを実施したいと考えております。

### ポスターセッション:多職種間カンファレンスを通しての医療従事者のチーム医療の認識の変化 看護師 諏訪原 正樹

国立病院機構総合医学会において、「多職種間カンファレンスを通しての医療従事者のチーム医療の認識の変化」についてポスターセッションを行いました。

平成24年度から4階北病棟(整形外科)では、医師、看護師、理学療法士、ソーシャルワーカーによる多職種間カンファレンスを実施してきました。各専門職が個別に持つ情報を提供し、チーム全体で共有することで、患者の治療方針や退院のゴールを共通認識としてもつことができました。その結果、よりスムーズに退院に向けての関わりがもてるようになりました。また、多職種間カンファレンスを通して、スタッフのチーム医療についての認識の向上が図れました。今後、より充実した多職種間カンファレンスを実施していくために、内容や時期を見直していく所存です。



## 栄養一口メモ

栄養管理室 主任栄養士

糖尿病療養指導士／病態栄養専門師 古田 雅

### ☆☆ 今回のテーマ： 鉄 ☆☆

#### 赤血球を作る栄養素の代表格！でも欠乏しやすい！？

鉄は、古くから知られている重要なミネラルです。栄養成分としての効能は、赤血球を作るのに必要な栄養素であり、体内では70%が血液中、残りは肝臓、脾臓、骨髄、筋肉などに存在し、酸素の運搬、細胞呼吸に重要な役割を担っています。赤血球は体内で少しずつ作り換えられるので、鉄を補う必要があります。

また、鉄は吸収率が低いため欠乏しやすい栄養素で、不足すると鉄欠乏性貧血を招いてしまうため、毎日の食事で肉魚類と野菜や果物を組合せて効率よく摂取することが大切です。今回は鉄を多く含み、寒暖差の大きい季節の変わり目において風邪予防にも繋がる”旬”の野菜を紹介します。

#### 菜の花

菜の花はアブラナ科で、蕾には花を咲かせるための栄養分が詰まっているので、蕾ごと食べる菜の花は、とても栄養価の高い緑黄色野菜です。鉄が豊富で、他にもβカロチンやビタミンB1・B2、ビタミンC、葉酸、カルシウム、カリウム、食物繊維などの様々な栄養素をバランスよく含んでいます。ビタミンCは、皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素であり、かぜの予防に効果が期待できます。炒め物、お浸し、和え物、揚げ物やパスタなど、様々な調理法で楽しめます。

少しほろ苦い早春の味は、茹でると甘味が出るため、お浸しや和え物などにするのがお勧めです。

#### 菜の花の昆布和え

##### ◇材 料 (4人分)

菜の花1/2束、キュウリ1本、塩昆布15g

##### ◇調理時間 約10分

①熱湯に菜の花1/2束を入れてゆでて水に取り、粗熱が取れたら水気を絞る。大きい場合は食べやすい大きさに切る。

<ポイント>茹でる時は、茎の太い部分と軟らかい歯の部分に分けて、先に茎からお湯に入れると均等に加熱できます。

②キュウリ1本の両端を切り落としてまな板に置き、分量外の塩をかけ手のひらで転がし(板ずり)、水洗いする。

③水気をきったキュウリをすりこ木等で軽く叩き、食べやすい大きさに割る。

④菜の花とキュウリ、塩昆布を和え、器に盛る。



\*\*菜の花のほろ苦さと香りが春を告げる簡単料理\*\*

#### エコキャップ回収運動

国府台病院では発展途上国の子どものワクチン接種運動に協力するため、キャップの回収運動を行っています。

平成23年1月末に設置してからの累計個数は、**192,946個**となりました。ご協力ありがとうございました。

平成23年1月設置～平成25年12月9日迄

累計個数 197,891 個

ポリオワクチン 238.5 人分



## “「矢切の渡し」をご紹介します”

江戸時代には関所が設けられていましたが、江戸川の両岸に田畑を持っていた農民が、田畑の耕作のために関所の渡しを通らず、農民の特権として自由に行き来するために使ったのがこの渡しの始まりです。

明治以降は、地元の方々の足として、また自然を愛する人々の散歩コースとして利用され、現在では江戸川で唯一の渡しとなり情緒豊かな手漕ぎ舟で兩岸を結んでいます。休日には、大勢の観光客がのんびりと江戸川の船渡りを楽んでいます。

対岸の柴又を舞台とする映画「男はつらいよ」シリーズの中でも、しばしば登場しています。渡し船の料金は、大人200円、子供・自転車各100円となっています。

矢切の渡しが一躍脚光を浴びたのは、「矢切の渡し」で第25回日本レコード大賞を受賞した細川たかしの大ヒットによるものですが、1976年に、ちあきなおみのシングルで『酒場川』のB面に、1982年には『矢切の渡し』がA面発売、1983年には、細川たかし、瀬川瑛子、春日八郎&藤野とし恵、島倉千代子&船村徹など、7種のシングルが発売されています。

昨今は、矢切の渡しの歌を知らない世代も多くなってきました。



乗船を待つ観光客



ねぎ畑

### 矢切地区

矢切の渡しから堤防を越えて山側の矢切地区を見下ろすと、一面にねぎ畑が広がっています。この一帯はねぎの産地で、太くて甘みがある「矢切ねぎ」として有名です。ねぎ畑の中の「野菊のこみち」を歩き、道標を追って「野菊の墓の文学碑」へ、田園風景や草花を楽しみながら散歩ができます。



河川敷ゴルフ場

### 江戸川堤防の河川側

矢切の渡しのある江戸川堤防の河川側には、江戸川ラインゴルフ 松戸コースがあります。矢切の渡し乗り場は、堤防を下りゴルフ場の12番と13番の間、15番と16番の間の歩道を抜けて行くことになります。



江戸川堤防

天気の良い日は、散歩、ジョギング、サイクリング、バーベキューなどで楽しむ人々で賑わう。

### 交通

- 松戸駅西口より京成バス矢切の渡し入口行きで終点下車約20分
- 松戸駅西口より京成バス下矢切下車約30分
- 北総鉄道北総線の矢切駅から徒歩30分



地図データ ©2013 Google, ZENRIN

外来診療担当医師一覧表

Table with columns for Department (診療科・曜日), Day (月, 火, 水, 木, 金), and Doctor Name. It lists various medical departments like Internal Medicine, Surgery, Pediatrics, and their respective staff members.

(注) 1. 外科及び整形外科の担当医は、手術などの都合で変更(交替)になる場合があります。

Table with columns for Department (診療科) and Doctor Name. It lists specific departments like Internal Medicine, Pediatrics, and their respective staff members.